

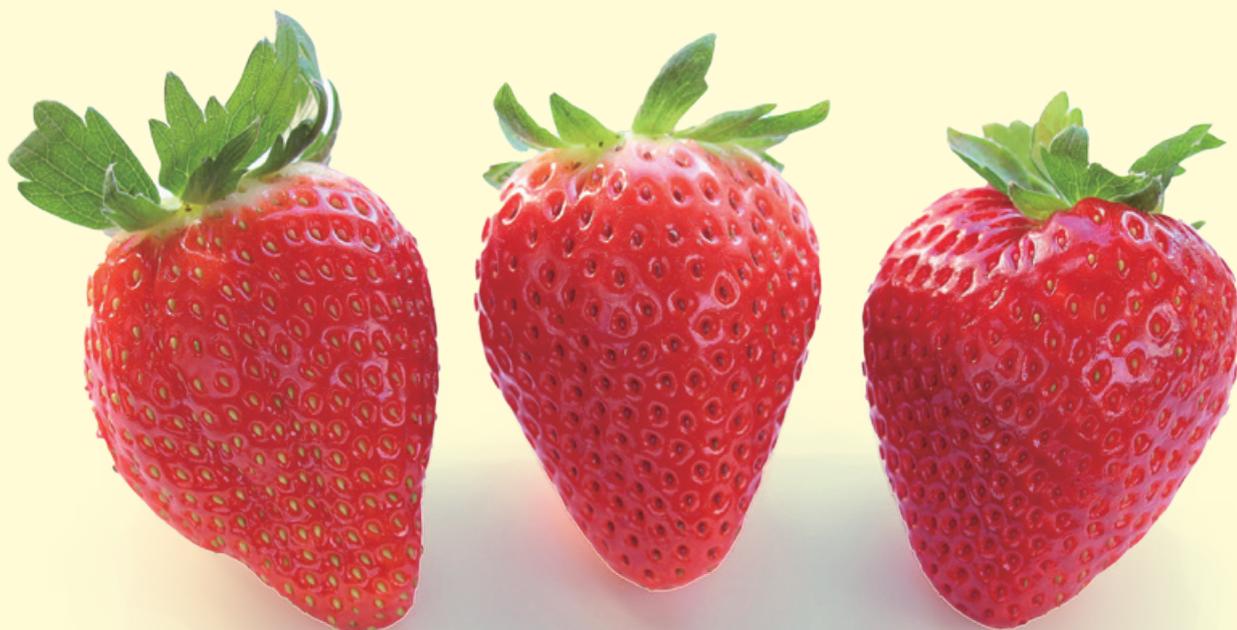
# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

**肥料原料の備蓄へ  
新倉庫を整備**

(耕種資材部)

6-7面

**全農グループが結集し  
生産現場を支える  
齊藤専務インタビュー**

(広報・調査部)

配送先変更(住所・宛名)、  
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

**全農 ZEN-NOH**

食と農を未来へつなぐ。

News!



## 肥料原料の備蓄へ新倉庫を整備

### 8000トンの保管能力、安定供給確保の拠点に

耕種資材部



新倉庫の外観

全農グリーンリソースは、全農グループにおいて肥料原料の港湾荷役や保管業務などを担っています。今回、同社鹿島支店管内に新たな倉庫を建設しました。

新倉庫は8000トンの保管能力を備え、輸入に依存している肥料原料のリン安や塩化加里などの保管に供する予定です。

近年、バラ原料を扱う倉庫が減少していることや、備蓄のための保管スペースの確保が課題となっていたことを

全農グリーンリソース(株)は2月2日、茨城県で肥料原料の新倉庫の竣工式を開催しました。本倉庫は、国の「肥料原料備蓄対策事業」の助成を活用し、同社と本会が事業主体となって整備した施設です。



神事の様子

背景に、本施設の整備に取り組みました。

竣工式には、農水省、肥料会社、物流会社、全農グループの関係者らが参集しました。あいさつした日比健常務理事は、地政学リスクの高まりなどにより、肥料原料調達が不安定になっている現状を踏まえ、肥料原料の備蓄は安定供給に欠かせないこと述べました。

本会は今後も肥料の安定供給確保に向け、備蓄体制の一層の強化に努めてまいります。

News!



## 水稻直播の事例や最新の動向共有

### 研究会にJAグループ職員・道県職員約500人聴講

耕種総合対策部



研究会に参加した(株)農業生産法人田仲農場・代表取締役社長の田仲氏

労働力の減少に伴い水田面積の維持が困難となる中、育苗や移植の労力を削減できる直播栽培が注目されています。研究会では取り組み事例や生産資材などの最新情報をJAグループ内で共有することを目的に開催しました。

生産者、農研機構、農機メーカーなどから多彩な講師をJAビルに招き、オンライン(Web)による講演を実施しました。申し込み総数は500人を超え、水稻直播栽培への関心の高さがうかがえました。

全農は1月21日、労働力不足に対応した水稻直播栽培の最新動向を共有するため、「水稻直播栽培研究会」をオンラインで開催しました。



オンライン配信が行われた研究会会場の様子

講演では、水稻直播栽培全般に関する内容をはじめ、経営面や取り組み事例、ローンの活用、生産者の取り組みや考え方などについてご紹介いただき、幅広い観点から知見を深める大変有意義な機会となりました。

今後も同研究会を通じて関係者間の情報共有と連携を深め、直播栽培の技術確立と普及促進を通じた、持続可能な水田農業の実現を目指していきます。



## 名古屋市で富山県産米「富富富」をPR!

おにぎりやお弁当でおいしさ体感

富山県本部



富山米「富富富」をPR!

富山県本部は2月28日、3月1日の2日間、富山県と連携し北陸・東海・近畿エリアを中心に店舗を展開する「アピタ」で、富山県産米「富富富（ふふふ）」のPR販売を実施しました。

今回実施したのは、名古屋市内のアピタ港店、アピタ名古屋南店の2店舗。会場では、富山の食の魅力を発信する「とやま食の王国大使ふふふ」と本会職員が店頭に立ち、「富富富」を使用した試食用のおにぎりを来店者へ渡しながら、「冷めてもおいしく召し上がれますよ」などと声を掛け、「富富富」の特徴や魅力を紹介しました。購入いただいたお客さまには、感謝の気持ちを込めてラップやティッシュをプレゼントしました。

さらに、2日間限定で「富富富」を使用したお弁当も販売し、多くの来店客に手に取っていただき、味わいを知っていただく貴重な機会となりました。今後も、「富富富」の魅力をより多くの皆さまへお届けできるように、認知度の向上に向けた取り組みを進めていきます。



## ベトナムで青森県産リンゴの販促イベント

試食やミニゲームなどで品質やおいしさPR

青森県本部



ベトナムでのリンゴ販促イベント

青森県本部は、ベトナム向けリンゴの輸出が11年目を迎えるにあたり、高品質なリンゴの価値観をPRし売り場を再構築するため、ベトナムでの販促イベントおよび商談・消費動向調査を実施しました。

青森県本部は1月25日、ホーチミン市内にあるイオン・タンフォーセランドン店で2月17日のテト（旧正月）に向けた需要喚起を図るため、青森県産リンゴの販促イベントを開催しました。県本部運営委員会の乙部輝雄会長が「青森県産リンゴがベトナムへ輸出され11年目となり、今年もベトナムの皆さまへお届けできることを大変うれしく思う。品質の高い、おいしいリンゴをお届けするので、引き続きご愛顧いただきたい」とあいさつしました。

会場では試食やアンケートに加え、より深く親しみを持ってもらうため、青森県産リンゴに関するクイズ形式のミニゲームも実施しました。

来場者からは「青森県産リンゴは香りが良く食感が素晴らしい」と好評の声が多く寄せられ、イベントは大いに盛り上がりました。この他、現地の輸入・卸業者2社でも、販促イベントや商談を行いました。今後も、青森県産リンゴの輸出拡大に向け、積極的に国外の売り場の構築に取り組んでいきます。

News!

## 展示会で国産麦・大豆の魅力を紹介

「スーパーマーケット・トレードショー」に出展

麦類農産部



全農の出展ブース



来場者に本会の取り組みや商品を説明

全農は2月18日、幕張メッセ(千葉県)で開催された「第60回スーパーマーケット・トレードショー2026」に出展し、「ニッポンの麦、ニッポンの大豆」をテーマに国産の魅力を紹介しました。

スーパーマーケット・トレードショーは、食品流通業界向けに「食」に関する最新の情報・商材・サービスを提案する最大級の商談展示会で、今回は2151社が出展しました。

全農は、国産麦・大豆の消費拡大の取り組みの一環として出展し、愛媛県産裸麦を100%使用した「はだかばう麦茶」や佐賀県産大豆「フクユタカ」の豆腐を練り込んだ「おとうふシヨコラ

ソイデチヨコ」の試食を実施しました。併せて、「静岡本山茶かりんとう」「はだか麦のまるやか黒酢」「はとむぎ豆乳飲料」など関連商品も展示し、国産麦・大豆の魅力を発信しました。

麦・大豆は、全国の数多くの産地で作付けされ、実需者からは安定供給を期待されています。需要と供給を着実に結び付けていくために、今後も国産の消費拡大に積極的に取り組んでいきます。

News!

## 加工用米サプライチェーン構築へ意見交換

日清食品×JA秋田おばこ×全農

米穀部



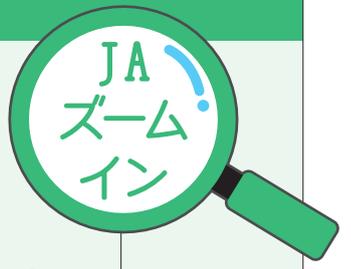
(左から)全農・金森常務理事、JA秋田おばこ・齊藤代表理事組合長、日清食品(株)・深井常務取締役、日清食品ホールディングス(株)・舟根CSCO

全農は3月、JA秋田おばここと加工用米の実需者である日清食品(株)とともに、産地・事業者双方にとって持続可能となる事業展開に向け、意見交換会を開催しました。産地・メーカー・流通といった各立場から現状や今後の展望について意見を交わし、将来に向けて有意義な場となりました。

全農と日清食品は2023年10月、国産農畜産物の供給および物流分野における包括的連携を開始し、安定的な供給体制の構築に向け取り組みを進めてきました。今回は、その一環として、日清食品に製品原料を供給する主要産地であるJA秋

田おばこことの会談を行いました。会談では、双方から現状報告や販売状況を共有するとともに、加工用米が使用されている「日清カレメシ」の試食会も実施しました。日清食品からは、カップライス市場の将来性について説明があり、持

て説明があり、持続可能な原料供給の実現や新たな食文化の創造に向け、今後も協力して取り組んでいくことを確認しました。今後も全農は、生産者・産地と実需者それぞれのニーズをつなぐ懸け橋としての役割を果たしていきます。



# 県オリジナル水稻新品种

# 高温に強い「コ・ノ・ホ・シ」

JA兵庫みらいは、兵庫  
県南部の加西市・三木市（一  
部）・小野市にまたがる播磨



生育調査を行うJAと  
関係機関の職員



刈り取り適期診断を行うJA職員

平野の中央部に位置し、5部  
2室14支店3営農生活セン  
ターを拠点に事業を展開して  
います。主力農産物として全  
国的に有名な酒造好適米「山  
田錦」をはじめ、地域農業の  
発展と安全・安心な農産物  
の提供に取り組んでいます。

## 2025年産デビュー 県内最大規模77㌥ 作付け

2025年産からデビュー  
した「コ・ノ・ホ・シ」は、16  
年から兵庫県とJAグルー  
プ兵庫が共同で研究・開発  
を進めてきた新品種のうる  
ち米です。JA兵庫みらいに  
おいても管内に試験圃場<sup>ほしやう</sup>  
を設置し、栽培適性や収量性、  
品質、食味などの調査を重ね  
てきました。

最大の特徴は高温耐性に  
優れていることです。近年、全  
国的な夏の高温による米の  
品質低下（白未熟粒の増加）  
が問題となる中でも、安定し  
た品質を維持できる点が大  
きな強みです。これまでの兵  
庫県の代表品種「キヌヒカリ」  
の代替として期待されてお  
り、県内外への知名度向上と  
ブランド価値の醸成をめざし



「コ・ノ・ホ・シ」を収穫する生産者

## JA兵庫みらい (兵庫県)



ています。

初栽培となる25年産は、  
管内で県内最大規模となる  
約77・7㌥を作付けしまし  
た。生産者やJA担当者が小  
まめな生育調査を重ね、細心  
の注意を払いながら栽培管  
理に取り組みました。その結  
果、1等米比率は97・2%と  
いう高い水準を達成し、品種  
のポテンシャルの高さを証明  
しました。今後は、これまで  
主力だった「キヌヒカリ」から  
「コ・ノ・ホ・シ」への作付け  
転換を積極的に進めていく  
方針です。

## 初収穫を終え 出荷式を開催

待望の初収穫を迎えた9  
月下旬、JAグループ兵庫や  
兵庫県などで構成する「ひよ

概要	2025年3月31日現在
正組合員数	1万5147人
准組合員数	1万3009人
職員数	317人
販売品取扱高	39億4千万円
購買品取扱高	16億7千万円
貯金残高	4090億6千万円
長期共済保有高	4598億円
主な農産物	米、黒大豆、 ブドウ、イチジク、 アスパラガス

うごの水稲オリジナル品種  
普及推進協議会」が主催し、  
JA兵庫みらい加西低産農  
業倉庫で「コ・ノ・ホ・シ」の  
出荷式が盛大に開催されま  
した。式典にはJAや行政機  
関の関係者に加え、兵庫県の  
齋藤元彦知事も参加し、収  
穫の喜びと今後の販路拡大へ  
の意気込みを共有しました。



テープカットに臨む関係者

# 全農グループが結集し 生産現場を支える

齊藤良樹代表理事専務インタビュー ～今年度の総括・来年度の抱負～

販売事業、輸出対策、技術・研究開発を担当する齊藤良樹専務に2025年度の振り返りと26年年度に向けての戦略について聞きました。

【広報・調査部】



齊藤良樹代表理事専務

——今年度を振り返り、販売事業・技術開発・輸出など、専務が担当される分野についてどのように受け止めていらっしゃいますか。

今年度は米価の急激な上昇や需給の不安定化、気候変動の深刻化、和牛相場の低迷、生乳の需給失調、生産資材価格の高止まりに加え、物価上昇や食生活の変化などによる消費行動・構造の変化が重なり、生産者の営農と経営、さらには全農の事業運営に大きな影響を及ぼした1年だったと認識しています。

## 米需給の変動と米穀事業の対応

——米をめぐる大きな変動のなかで、全農の米穀事業はどのように取り組んできたのでしょうか。

25年産米は需給がタイトな状況で始まり、政府備蓄米対応や価格上昇など、産地・集荷・流通・消費のあらゆる局面で大きな変化がありました。その中で全農は「生産者の営農継続」と「全国の実需者・消費者への安定供給」を柱として取り組みを進めてきました。

24年産で減少した集荷の回復を最重要課題とし、主食用米の集荷目標を227万トに設定しました。大規模生産者へのJ-Aと連携した直接訪問、契約履行率の高い生産者への出荷奨励、「営農継続可能な契約栽培取引」の導入・拡充など、地域の実態に応じて集荷対策を強化してきました。

——成果と課題については、どうお考えですか。

一定の成果は得られましたが、生産者の出荷先が複雑化するなど、流通構造の変化も改めて確認できました。

行き過ぎた集荷競争は米価の過度な上昇や外国産米の増加を招き、国産米の消費減退につながる懸念もあります。

26年産米に向けては、全国の需給動向をしっかりと見通したうえで品



昨年9月に竣工した全農パールライス(株)千葉米粉工場





目・用途別の生産と安定取引の実現、併せて生産者手取りの確保を両立させることが重要だと考えています。

また、主食用米に限らず、備蓄米・加工用米・輸食用米、飼料用米などの水田活用米穀、麦・大豆といった輸入依存作物も含め、水田全体の活用を考え、たポットフォリオの設定が重要だと認識しています。

### 畜産・酪農の厳しい環境と 取り組み

——畜産・酪農を取り巻く環境も非常に厳しい一年でした。

飼料やエネルギーコストの高止まりにより、中小規模の生産者を中心に廃業が続きました。和牛は素牛価格が平均で70万円台まで回復しているものの、牛肉の消費は低迷し、枝肉相場は前年割れの状況です。

全農では、国の緊急対策事業を活用した需要喚起、外食・インバウンド需要への取り組み、こども食堂への食材提供、輸出強化など、多面的な需要拡大策を

進めています。同時に、獣医師や技術者がJAの営農指導員と一体となって農場の予防衛生や暑熱対策、生産性向上の支援に取り組んでいます。

酪農においても、都府県では離農が継続的に進む一方、北海道では生産拡大志向が強まっており、地域間の動向差が需給調整を難しくしています。全農は乳製品工場との連携強化により需給の平準化を図るとともに、新工場建設や「全農美土里ファーム」の稼働による生産基盤の補完にも取り組んでいます。養豚・鶏卵でも疾病の影響が続く、供給調整や衛生対策を強化しています。

一方、配合飼料については、為替や国際情勢の影響で価格が大きく変動し、生産者の皆さまにもご負担をおかけする局面が続きました。

全農では、スイスに設立した全農グローバルホールディングス社を活用し、調達安定化とリスク分散を進めています。併せて国内では、JA全農くみあい飼料の機能強化や機能性飼料の開発・普及にも力を入れ、生産現場をしっかりと支えてまいりたいと考えています。

### 営業開発・研究開発・輸出の 取り組み

——営業開発や研究開発、輸出分野の進展についてはいかがでしょうか。

外食企業への提案、「ニッポンエール」の

商品開発、直売所支援、ファミリーマーチ様との協働など、販売チャネルの拡大が進みました。生協様との連携による産地訪問では、米の安定供給に向けた対話が深まりました。技術面では4研究所の連携体制を整え、農研機構様との高温対策研究、安川電機様とのロボットなど、実装に直結する研究を強化しました。

輸出は米相場の高騰や競争激化などの影響で厳しい状況でしたが、米のコスト競争力強化、和牛の部位・販路多様化、青果物の輸出産地づくりとゴールドチーン整備など、安定的な輸出基盤の構築を進めています。



展示会に全農グループで共同出展

### 来年度に向けて

——来年度に特に注力される点を教えてください。

特に重要なテーマとして

▽米の需給適正化に向けた取り組み▽和牛需要拡大、生乳需給安定化と酪農経営の維持▽国産青果物の供給拡大に向けた生産振興▽国の政策に呼応した国産農畜産物(加工品含む)の輸出促進や、合理的な費用と営農継続を考慮した日常的な取引の推進▽農畜産物の温暖化(高温)対策の取り組み——を考えています。構造的課題に正面から取り組み、持続可能な農業の確立を目指します。

——最後に、JA役員へのメッセージをお願いします。

全国のJAおよび連合会の皆さまには、日頃より生産現場を支えるため多大なるご尽力を賜っており、心より感謝申し上げます。

農業を取り巻く環境は大きな転換期を迎えておりますが、こうした変化は同時に新たな可能性を切り開く契機でもあります。

全農グループは、生産者およびJAグループのサプライチェーンを支える責務を自覚し、持続可能な日本農業の実現に向けて、不断の努力を重ねてまいります。引き続き、皆さまのご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本香堂×ニッポンエール  
に新商品 お線香にシャインマスカットと白桃の香り

花々の豊かな香りで親しまれてきた(株)日本香堂のお線香「かたりべ」シリーズに、果実の香りとして長野県産「シャインマスカット」と岡山県産「清水白桃」を使用した新商品が登場!【営業開発部】

日本香堂のお線香「かたりべ」シリーズは、花々の豊かな香りが特徴で、煙を抑え供養用から日常使いまで幅広く楽しめます。

長野県産「シャインマスカット」果汁と岡山県産「清水白桃」のピューレを使用し、爽やかでみずみずしい香りと甘く芳醇な香りを表現しました。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。



かたりべ シャインマスカット パラ詰

かたりべ 白桃 パラ詰

「国産農畜産物関連陳列キャンペーン」開催  
過去最多37都府県222店舗が参加

全農は、「令和7年度 秋冬期国産農畜産物関連陳列キャンペーン」を開催しました。全国からエコーブ  
マーク品と農畜産物を組み合わせた大小さまざまな創意工夫に満ちた陳列が集まり、農産物直売所の売場を盛り上げるキャンペーンとなりました。

【くらし支援部】

最優秀賞には、演出と陳列商品の圧倒的なボリューム感がひと目で伝わり、顧客の目を引いた「ふれあ

いセンター妻沼店(埼玉県・JAくまがや)」が選ばれました。

優秀賞には、「小平ファーマーズ・マーケット(JA東京むさし)」「JA交流ひろば とれたて元気市 となりの農家店(JAひろしま・JA全農ひろしま(協同運営))」「三鷹緑化センター(JA東京むさし)」がそれぞれ選ばれ、陳列キャンペーンを盛り上げていただきました。

全農は、今後も農産物直売所の活性化に向けた取り組みを進めます。



JAくまがや ふれあいセンター妻沼店の陳列

JA全農の産地直送通販サイト  
JAタウン ショップ紹介

you+youくまもと 農畜産物市場

清らかな水と澄んだ空気、豊かな緑に恵まれた熊本の大地で、愛情を込めて丹念に育てられた「くまもと黒毛和牛」。公益社団法人日本食肉格付協会の枝肉肉質格付で、最高位5等級および上位4等級を獲得した枝肉のみを使用しています。

さらに、28カ月以上肥育され、霜降り度合い(BMS)6以上という厳しい基準を満たしたものだけが、プレミアムブランド「和王」として認められます。

美しい霜降りと豊かな風味、口の中でとろけるやわらかさ。最上級くまもと黒毛和牛プレミアム「和王」を、ぜひ焼肉でご堪能ください。



くまもと黒毛和牛「和王」ロース焼肉用 約400g  
…8,400円(税込み)



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)